

登山

TEAM SUMMIT

(社福)幸清会 幸豊園(特別養護老人ホーム)

虻田郡豊浦町字豊泉132

感動を共有し達成感を味わう
山の上、大空にも挑戦!

昨年4月に発足し、メンバーは現在、20代〜40代の10名(男性3名、女性7名)。年に3・4回のペースで登山を楽しんでいる。チーム名のサミットは「頂^{たかね}」という意味だ。

「登山だけでなく、ラフティングやイベントポール(マーカーと呼ばれる銃でインクの入ったボールを撃ち合う新スポーツ)など、アウトドア全般を楽しんでいます」と代表の長谷部直人さん。ニセコに近く、アウトドアのフィールドにも恵まれている。「やりたかったけど、きつかけがなかったという人が多くて、話をもちかけると、すぐにのつてくれました。サークルを利用して感動を共有できるのがいいですね。アウトドアで自然の芸術に触れることで飽きません」とサークル活動のメリットを語る。

法人に聞く、サークル支援の目的と意義

社会福祉法人 幸清会(法人本部)

虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉190-3

幸清会では、12のスポーツサークル、3つの文化サークルを支援対象として、活動費の一部を支給している。事務局次長の久久保義広さんに話をうかがった。

——サークルを支援する目的は何ですか

法人の方針の一つである「職員の福利厚生 の充実」の一環として、心身の健康増進、ストレスの解消、職員間の親睦の推進等、職員が健康的に働くことのできる環境づくりへの支援として行っております。

——仕事へのどんなメリットを期待しますか

生活の中にメリハリをつけることにより、仕事に対する集中力を高め、積極的に取り組む姿勢を養っていただきたい。また、いろんな人との親睦を深めることにより、仕事における円滑なチームワークづくりに役立てていただきたい。サークル活動で過ごす時間の充実は、仕事にも良い影響を与えていると考えています。

——デメリットはありますか

現在のところ、特にありません。

——法人内だけでなく、地域交流に役立つことはありますか

職員のみで構成されたサークルに限定せず、職員が所属する地域のサークルに対しても支援の対象としています。また、地域の行事や大会への参加を通しての交流もあります。

——サークル支援を維持・継続するためには、何が必要だと思いますか

各事業所の管理者の理解と安定した事業活動が重要だと考えます。

——サークル活動について、法人独自の考えはありますか

人材育成の一環としても考えております。大切な職員の福利厚生を図っていますので、今後も支援していきたい。

登山は、羊蹄山やチセヌプリ、アヌプリなど近隣の山が多いが、今回は道南の最高峰・狩場山(1520m)登山を計画しているという。



右端がリーダーの長谷部さん。

一番印象に残っているのは大雪登山。2泊3日でキャンプをしながらトムラウシ〜旭岳〜美瑛岳を縦走したことだとか。登山の魅力は達成感にあるという。

「苦しいことも多いんですが、やればできるということが実感できます。ピークをきわめたときも気持ち

ラフティングに挑む「TEAM SUMMIT」。アウトドアなら何にでも挑戦だ。



いんですが、下山したあとで頂上を見上げたとき、この山を征したんだという達成感が湧いてくるんです」。

最近、中高年の登山事故が相次いでいるが、登山で一番大切なのは山の知識と装備だという。「急な計画を立てないこと。早めに計画を立てて、計画の時点でみんなよく話し合います」。事前に施設に届け出れば、休みも合わせやすい。

今後の計画はと聞くと、「空を飛びたい」と即座に言われたのでびっくりしてしまった。スカイダイビングやバンジージャンプ、沢登りなどもやってみたいという。「私が頭で思い描いたことを口にする、みんな盛り上がるんです」。活動範囲はどんどん広がりそうだ。